

令和7年度 秋期 プロジェクトマネージャ試験 解答例

午後Ⅰ試験

問1

| 出題趣旨 | |
|--|--|
| <p>生成 AI を活用したシステムの開発・導入・運用・保守を行うプロジェクトでは、これまでの開発プロセスとの違いを理解し、その特性に応じたプロジェクト計画を作成する必要がある。</p> <p>本問では、テストの採点などに生成 AI を活用するプロジェクトを題材として、プロジェクトの計画の立案に先立って、各プロセスにおける作業の、SaaS 導入プロジェクトとの相違点を踏まえたプロジェクト計画の方針の立案と、マネジメントの対象とするリスクの特定やリスク対応策の検討を行う方法について、プロジェクトマネージャ(PM)としての実践的な能力を問う。</p> | |

| 設問 | 解答例・解答の要点 | 備考 |
|-----|-------------------------------------|----|
| 設問1 | 生徒の理解度を高める効果 | |
| 設問2 | (1) 作業の違いを踏まえてプロジェクト計画をテラリングするため | |
| | (2) 学習データの正確性を担保するため | |
| | (3) 全ての講師が運用・保守プロセスに関わる体制を確立する狙い | |
| | (4) 生成 AI の導入は時期尚早という一部の役員の意見を変える狙い | |
| 設問3 | (1) 網羅性が不足する領域の学習データを追加する効果 | |
| | (2) 講師が正確性を担保した新たな学習データであるから | |
| | (3) これまでのやり方に固執する可能性があるから | |

問2

| 出題趣旨 | |
|--|--|
| <p>プロジェクトマネージャ (PM) は、プロジェクトを計画通りに進めるためにステークホルダの影響度や関与度を把握し、その特性に基づいたステークホルダマネジメントの計画やコミュニケーション計画を作成する必要がある。</p> <p>本問では、プロジェクトへの関与度が“支持”でないステークホルダが存在する状況下の情報システム刷新プロジェクトを題材として、ステークホルダマネジメントの計画、及びコミュニケーション計画の作成について、PM としての実践的な能力を問う。</p> | |

| 設問 | 解答例・解答の要点 | 備考 |
|-----|---|----|
| 設問1 | (1) K 役員の影響度が“高”だから | |
| | (2) K 役員が、標準機能では営業活動の柔軟さ、俊敏さが損なわれることを懸念しているから | |
| | (3) 新 CRM 導入が W 社の新たな開発・保守範囲の受託につながるから | |
| 設問2 | (1) 全国の営業所からの問合せに滞りなく対応できる効果 | |
| | (2) 営業活動への適合の観点での検討を踏まえてワークショップで説明してもらうため | |
| | (3) ワークショップで要件定義が遅延するリスク | |
| | (4) トレーニングの開始が遅れないようにするため | |
| | (5) 新 CRM へのデータ移行を滞りなく進めるため | |

問3

| 出題趣旨 | |
|---|--|
| <p>システム開発プロジェクトに大きな影響を与える外部環境の変化による計画変更において、プロジェクトマネージャ(PM)は、スケジュール、コスト、リスク、ステークホルダ、チームなど、様々なマネジメント要素のトレードオフの解消に向けた動きをする必要がある。</p> <p>本問では、法改正に伴う顧客価値の創出に向けたプロジェクト計画の変更を題材として、プロジェクト体制の見直し、スケジュールリスクへの対応など統合マネジメントの実践能力を問う。</p> | |

| 設問 | 解答例・解答の要点 | 備考 |
|-----|----------------------------------|----|
| 設問1 | (1) 規制緩和に対応する場合の定量的な効果算出 | |
| | (2) 規制緩和を顧客の利便性向上につなげる役割 | |
| 設問2 | (1) 顧客価値の創出を目標とするシステム開発を実現すること | |
| | (2) 責任部署が業務部門であるとC部長に理解してもらうこと | |
| 設問3 | (1) 先行実施した開発作業の手戻り | |
| | (2) 追加メンバーの知識不足に起因する品質不足 | |
| | (3) 各タスクにバッファはもたせずプロジェクトバッファをもつ。 | |
| | (4) 規制緩和への対応のリリース時期を延期する。 | |